

2017年12月

情報化に伴う子どもの未来 ～人格と職業の変化に着目して～

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B4R11055 木村 絢香

【卒業論文概要】

今日、インターネットや携帯電話などの発達や普及により、大量の様々な情報が簡単に手に入れることができるようになった。手に入れるだけでなく、LINE や Twitter、Facebook などの SNS を通じ、だれでも発信することもできるようになったことで、コミュニケーション手段や家庭での過ごし方、将来の夢が変化している。

本論文は、情報化社会という現代の大きな社会の波をとらえ、その波が子どもたちにもたらした影響を考察し、子どもたちの人格や職業がどのように変化しているのかを明らかにすることである。

まず、ICT (Information and Communication Technology:情報通信技術) が発達や普及する前後の子どもたちの人格がどのように変化しているかを比較する。発達や普及する前では、固定電話や手紙などを介しながら相手のことを考え、コミュニケーションを行っていた。一方で、ユビキタス社会に向かっている現在では、携帯電話などの情報メディアの向こう側に人間がいることを忘れて多くの子どもが多い。ゆえに、SNS などを通じた犯罪やいじめが増加している現状から、実感を伴う情報教育が必要だと検討する。実際に事件が起きて取り返しがつかなくなってから考えるのではなく、授業を通し、取り返しのつく範囲で経験を行うことにより、今後の情報リテラシーにも良い影響がある。したがって、ICT を効果的に利用し、子ども自身の身にしみ、身を守る大切さを学ぶことができる。

そして、近年ではシステムエンジニアやプログラマーなど ICT に関する職業が増加している。これに伴い、子どもたちの将来の夢も変化している。私が小学生のころには挙げられなかった YouTuber やゲームクリエイターなどの新たな職業が挙げられるようになった。だが、保護者の方が我が子に就いてほしい職業は異なる。また、約70%の子どもは親と別の職業に就きたいと考えている。情報化により、様々な職業が誕生していることを考えさせるとともに、学校教育の中に就業意識や能力を形成する授業を取り込むというものをもっと積極的に行うべきだと考えられる必要がある。

ICT などは、諸刃の剣であり、適切に使用すれば非常に便利なものである。だが、使い方を間違えると人を傷つけてしまうような危険なものでもある。私は、そのような ICT を用いた教育を小学校・中学校・高等学校の校種段階において適切に導入することにより、日本がこれからの国際社会の中の ICT 大国として発展していくことができ、また新たな教育効果をあげるものであると判断した。